

令和5年度 評価計画及び自己評価

(計画) (中間) (最終)

阿賀中学校区 校番 8 学校名 呉市立阿賀小学校

a 学校教育目標	自ら伸びるとともに伸びる	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<ミッション>(学校の使命) ・地域との協働のもと 主体的・自律的に生きる子どもを育成する。 <ビジョン>(将来の学校像) ・阿賀学園地域教育連携協議会(アガデミア)の活動を生かして、「活気ある楽しい学校」「保護者・地域から信頼される学校」「やりがいのある学校」を目指す。
----------	--------------	----------------------	---

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	昨年度から呉市「小中から創る『未来の学び』実践事業」の指定を受け阿賀中学校区で研究を進めており、授業や生活における居場所づくりを通して、主体的に学び、ともに伸びようとする児童生徒を育成する取組を行っている。昨年度は、研究テーマの副題である「授業や生活における居場所づくり」について、本中学校区での捉えを共通認識することができた。そこで、今年度は、これまで取り組んできたことを基盤に据え、本中学校区の授業スタイルを確立し、それに伴う手立てや工夫を一層充実させ、児童の学力向上に努めるとともに、児童の正確な実態把握(個の変容の把握)に基づく取組を進め、児童の誰もが安心して、目的意識をもって過ごせるようにしていきたい。 めざす子ども像 自分の考えをもつ子ども・最後までやりきる子ども・認め合い励まし合う子ども
------------------------------	--

育成すべき資質・能力	知識・技能	思考力・判断力・表現力	自らへの自信	思いやり・感謝・貢献
------------	-------	-------------	--------	------------

評価計画(中期経営目標を設定してから 1 2 3 年目)					自己評価						
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します)	g 指標(効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	学力の向上	①基礎基本の学力の定着を図る。	・学力調査等の課題を踏まえ、指導の重点を定める。 ・「ドリルタイム」を年間計画に従って継続して取り組む。 ・漢字・計算の反復練習や課題克服のための学習を実施する。 ・個の課題に応じて、個別指導を行う。 ・授業改善を進める。 ・①問いをつくる ②自分の考えをしっかりとつ ③みんなの考えを交流する ④発展的ふりかえりの時間を確保する。	・全国学力・学習状況調査において正答率30%未満、無回答率を「0」をめざす。 ・標準学力調査で全国平均より全校平均がプラス18点以上をめざす。(※各学年プラス3点以上) ・国語と算数の単元テストの平均点 ・児童の授業満足度(よくわかる)	95%	96%	101%	A			
**	自尊感情の高揚	①規範意識を高める。 ②思いやりの心を育てる。	・生活目標を示し、「返事・あいさつ・くつそろえ」を点検させる。 ・縦割り掃除を無言で行う。 ・クラスチャレンジ、阿賀小オアシス隊、阿賀小さきれいにし隊等の活動の充実を図る。 ・「くん・さん」や「ほかほか言葉」を使う。	・「返事・あいさつ・くつそろえ」の自己評価 ・「自分が好きだ」「自分にはよいところがある」の自己評価	90%	89%	99%	B			
*	基本的な生活習慣の定着と体力の向上	健康な生活を増進させる。 体力の向上を図る。	・栄養教諭と連携した食に関する授業の実施や委員会活動を巻き込んだ運動を展開する。 ・定期的に生活カードで点検し、保護者啓発を促す。 ・体育授業の充実、「阿賀小準備運動」・「あがり運動」を実施する。 ・体力テストに向けてブラッシュアップカードを活用する。	・「早ね・早おき・朝ごはん」の達成率(毎日朝ごはんを食べる。) ・新体力テスト(50m走、20mシャトルラン、長座体前屈)が県平均を上回る。	97%	96%	99%	B			

業務改善	やりがいのある学校づくり	児童生徒と向き合う時間を確保する。	・会議時間、研修時間等を短縮する。	児童生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合	80%	86%	108%	A			
		長時間勤務を削減する。	・平日18時30分退校、週1日17時退校を徹底する。	時間外勤務が月45時間を超えない教職員の人数	96%	32%	33%	D			

【k:自己評価 評価】
 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

阿賀中学校区 校番8 呉市立阿賀小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	学力の向上	<p>貫</p> <p>基礎基本の学力の定着を図る</p>	<p>○全国学力・学習状況調査の正答率30%未満、無回答率を「0」については96%、単元テストの平均点は87%、児童の「授業満足度」は、94%で目標値を達成した。</p> <p>児童の実態把握に努め、学年始めや発展的振り返りの校内研修等を実施することで、日々の授業改善につながり、学力を向上することができた。発展的振り返りの質の向上も見られる。今後も、思考力・判断力・表現力をより一層伸ばしていく必要がある。</p>	<p>・正答率30%未満の児童や学力に課題がある児童については、授業での個別の支援や放課後の学力補充を引き続き行う。</p> <p>・レディネステスト等で、個のつまずきを把握し、授業改善につなげる。</p> <p>・めあてからまとめ、発展的振り返りといった授業実践を積み重ね、児童の主体的な学びを通して、児童の思考力・判断力・表現力の向上を目指していく。</p>
**	自尊感情の高揚	<p>貫</p> <p>規範意識を高める</p> <p>貫</p> <p>思いやりの心を育てる</p>	<p>○●「くつそろえ」は93%で目標値を達成したが、「返事」は88%、「あいさつ」は85%であった。</p> <p>○●「自分にはよいところがある」は81%で目標値を達成したが、「自分が好き」は76%であった。</p> <p>委員会でのキャンペーンや児童の自発的な行動(あいさつ運動)、生活目標などで規範意識を高めることができた。これらの取組を今後も充実させていく必要がある。</p> <p>縦割り掃除を取り入れることで、無言掃除への意識の高まりが見られた。</p> <p>AJV活動やAJV Jr.、クラスチャレンジやクラスでの係活動等を通じた児童のがんばりを評価することができた。</p> <p>QU調査を行うことで、児童の満足度やクラスの状態を把握し、学級づくりに生かすことができた。</p>	<p>・生活目標やクラスチャレンジ、阿賀小きれいにし隊や各キャンペーンなど、学校全体での取組を継続し、規範意識を高めていく。</p> <p>・児童主体で取組を行っていくことに加えて生活目標や各キャンペーン、AJV活動、生徒指導規程や阿賀小のきまりへの理解を深め、全教職員が一貫した声かけ、指導ができるよう働きかける。</p> <p>・自尊感情の高揚のために、全教職員が児童への肯定的評価や前向きな働きかけを意識する。担任等からの肯定的評価、児童相互のよいところ見つけ等を日常的に行い、自分のよさに目を向けさせる指導も行っていく。</p>
*	基本的な生活習慣の定着と体力の向上	<p>健康な生活を増進させる</p> <p>体力の向上を図る</p>	<p>○食育朝会で、簡単に作れる朝ごはんのレシピ動画を紹介した。</p> <p>○給食委員会の活動で、給食室前の掲示板に朝ごはん啓発の掲示を行った。</p> <p>●6月実施の学校評価アンケートの結果では、毎日朝ごはんを食べている児童(肯定的評価)は95.7%で昨年より1.4ポイント増加していたが、目標値には達していない。6月実施のあがり生活カードでは、毎日食べている児童が88.9%で、昨年より0.8ポイント減少していた。</p> <p>●新体カテストの結果から、県平均を越えた割合は、50m走50%、長座体前屈33%、シャトルラン41%だった。</p>	<p>・委員会活動の常時活動としての給食時間の放送や栄養教諭と連携した学級活動等において、食の指導を行う。</p> <p>・第2回のあがり生活カードでは、前回の結果を振り返りながら実施させ、児童の生活習慣向上の意識を高め、保護者啓発を行う。</p> <p>・本校の課題種目である50m走、長座体前屈、シャトルランの向上につなげるため、体育の授業で走の運動を意識的に取り入れ、毎朝の体力アッププログラムの徹底を図れるよう、校内研修を実施する。</p> <p>・2学期に行う第2回新体カテストに向けて、大休憩や昼休憩に全校児童が走るキャンペーンを実施し、持久力をつける活動を行う。</p> <p>また、引き続きビヨンドカードやブラッシュアップカードを用いて、日々、体力を高めていく。</p>
業務改善	やりがいのある学校づくり	<p>児童生徒と向き合う時間を確保する</p> <p>長時間勤務を削減する</p>	<p>○児童と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合は、86.3%。同学年や指導のお陰で、必要な時に時間の確保することができた。</p> <p>○学期末の短縮日程があったので、放課後の時間確保ができていた。</p> <p>○会等の削減、計画的に放課後の会議等を含むことで、時間意識をもち仕事をすることができた。</p> <p>●校務分掌に時間がかかり、学級の児童のための時間や教材研究の時間が確保しにくかった。</p> <p>●月45時間を超えない教職員の人数の割合は、32.3%であった。</p> <p>●4月は達成困難であったが、徐々に月ごとの時間外勤務の時間は減ってきた。</p>	<p>・タブレットの活用、整理整頓、ペーパーレス等、効率的な職場環境の創造を継続して行う。</p> <p>・時数の管理をしながら、短縮授業等で、放課後の時間を確保していく。</p> <p>・時間を学年打ち合わせ等で年間計画に見直しをもち、効率的な作業配分を行い、個人作業の時間を確保し、勤務時間を削減していく。</p> <p>・暮会等で声をかけ合った掲示物で啓発したりすることで、効率よい時間の使い方を意識できるようにする。</p>

令和5年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

阿賀中学校区 校番8 学校名 呉市立阿賀小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	目標、指標の設定については適切にされている。課題解決に継続して取り組むことで、児童の変容を追い求めることができている。
目標達成のための方策の適切さ	A	児童にとってもわかりやすい方策となっており、その実践においては、児童が当たり前のこととして頑張っている姿が見られる。基礎基本の学力の定着においては、方策の重点化と継続性が図られている。規範意識を育てるために、挨拶・返事・靴揃への徹底が継続されている。健康な生活の増進については適切であるが、体力の向上については再考も必要。
自己評価の結果の分析の適切さ	B	どの項目についても、適切な自己評価とその分析をされているが、業務改善については、やりがいのある学校にづくりに向けて、これからもすべての職員の目標達成を願っている。時間外勤務の削減については、昨年2月に90%の達成であったが、今季は32%となっている。個人の意識なのか、学校体制なのか、踏み込んで分析する必要がある。
今後の改善策(案)の適切さ	A	どの項目についても、現時点での目標値達成をもとに今後の改善策を練られている。さらに、自信をもって大きな声で発言する姿や、発表者を大事にする(しっかり見て聞く)姿がほしい。今後不透明なことも多いので、その時点での適切な改善策も必要である。
その他		子ども達の居場所づくりに先生方が力を注いでおられて、家庭でも努力されている保護者さんの希望になると思っています。役員活動も子ども達や保護者さんにとって元気になれる活動になると思っています。先生方の努力に感謝しております。全体的に落ち着いた学習及び生活態度が見られ、今後とも、チーム阿賀小として、子どもの力をさらに伸ばしていくことを期待しています。様々な規制や制約の中、子ども達の心身共に健全な成長を切に願っている。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>授業や生活における居場所づくりを通して、主体的に学び、ともに伸びようとする子どもの育成を、今後も「チーム阿賀小」で継続して取り組む。</p> <p>学校関係者評価委員さんの評価を受けて、「学力の向上」「自尊感情の高揚」「基本的生活習慣の定着と体力の向上」については、様式3-2「結果の分析及び今後の改善策(案)」の「今後の改善策(案)」をチーム阿賀小として、自信をもって取組を進めていく。</p> <p>「体力の向上の方策」については、「阿賀小準備運動」や「あがっ子運動」の確認・改善をし、目標達成のための手立てとして活用できるようにしていく。</p> <p>また、長時間勤務の削減に向けて、従来の取組をすすめるとともに、時数の管理をしながら、短縮授業等で放課後の時間の確保に努め、「チーム阿賀小」として柔軟に取り組んでいく。</p>
--------------------	--